

● 学校支援情報 ●

岡崎むかし館通信

<http://www.libra.okazaki.aichi.jp/16000.htm>

むかし館活用事例や郷土学習のヒントなどの情報を発信します。



図書館交流プラザリぶらは、11月に開館5年目を迎えます。学校支援を目的とするむかし館では、より多くの先生に活用していただけるように「岡崎むかし館通信」を発行します。

むかし館のあれこれ — 活用・教材化へのヒント — 「山車」

第1回は、岡崎の「山車^{だし}」文化についての情報をお伝えします。むかし館では、常設展示「ふるさと岡崎探検図鑑」「岡崎の祭り」で紹介しています。

現在岡崎には、14輛の山車が確認されています。この14輛の山車の内訳は、能見町8輛、榎山町4輛、矢作町2輛です。これらの山車が町引きされる様子は、とても壮観です。また、愛知県は、全国的に見ても有数の山車保有県として位置づけられています。

この山車を素材にして、地域の文化とくらしを紐解く教材にできる可能性があります。①普段はどこに、どうやって維持管理しているの？②祭囃子や祭事を、どのようにして子どもや若い世代の人たちに引き継いでいくの？③どうして「山車(だし)」と読むの？似たものに「屋台」があるよね、どう違うの？④山車の形や装飾の名前や意味は？⑤地域にとって山車の役割と存在は？などの課題設定を与えることが出来ると思います。

最初に、岡崎の3事例をより具体的に学年に応じた課題で取り組ませ追究させていくと、面白いテーマ設定ができるのではないのでしょうか。総合的な学習の時間を使って、3年計画でまとめ・発表にも耐えうる素材だと思っています。是非、実践化を期待しています。出前講座や資料提供などサポートをさせてください。

各学校の子どもたちの調べを基に「山車サミット in 岡崎」を開催できたらおもしろいと思いませんか。実現できることを楽しみにしています。【N】



能見町山車



矢作町山車



榎山町山車

地域の再発見 —あるく・みる・きく—

むかし館では、「モノ・コト」の記録・活用という観点で、岡崎市というフィールドを歩き続けています。



手松明

最初に、今に生きる江戸時代の「太陰太陽暦」(暦と季節のズレを調整し、およそ3年に一度閏月を設けている)についての情報を提供しましょう。

それは、瀧山寺の鬼祭りの重要な道具である松明に巻かれている縄の数に生きています。祭りの象徴である大松明、祭りのクライマックスを盛り上げる若い衆が乱舞させる松明、祖父面・祖母面・孫面をかぶった三鬼の持つ手松明。それらの松明をよくみると、今年は12本(一年を12ヵ月とする)巻かれていました。ただし、閏月には13本(一年を13ヵ月とする)巻くと言います。閏月は、おおよそ3年に一度の割合でやってきます。現代の暦をごく当

たり前のように意識している現代人にとって不思議と思われることが、今に続く祭りや農作業の中に生きています。その意味と願いを子どもたちと一緒に探ることも、社会科学習の楽しみの一つと同時に、今を読み解くヒントに十分なり得ると思います。【N】

第1回は5月発行ということで、能見神明宮大祭[H25.5.11(土)、12(日)]にあわせて、岡崎の「山車」についてご紹介しました。当館では常設展示資料のほかにも、フィールド調査などで撮影した写真データなどの提供も可能です。

今後も、先生方の意見を反映させながら、道具の貸出や体験プログラムなども考えていこうと思っています。ぜひ率直なご意見、ご要望を編集担当へお寄せください。よろしくお願いいたします。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

【企画展「くらしの道具—今と昔—⑦商う」～6/11まで開催中】



【次回展示「岡崎の祭り—大嘗祭悠紀斎田—」6/13～9/10】